

2024年04月23日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【今週末は、日銀金融政策決定会合】

今週末の4月25日、26日に日銀金融政策決定会合が予定されている。

大方の事前予想は、現状維持と言って良いのだろう。

+++++

このところの外国為替市場では、連日、「円安(ドル高)」が話題になっている。

先月までは、152円(=152.00)がレジスタンス(上値抵抗)で、151円台になると、日銀・財務省の「ドル売り円買い介入」が大いに警戒されていた。

それで、151円台を付けると、いったん150円割れを見るような調整(修正局面)があったのだが、今月になって、152円(=152.00)のレジスタンス(上値抵抗)を上を抜けると、154円台を付けて、高値を更新し、そのまま高値圏での小動きに推移している。

財務大臣等のいわゆる「口先介入」のような発言があるものの、実弾での「介入」は出ていない。

+++++

日銀の金融政策にとっては、為替の水準も重要なテーマではあるものの、あくまでも政策金利が主体となるもので、為替水準を操作するために、政策金利を動かすことは、本末転倒となる。

だから、為替水準を円高にするために、政策金利を動かすことはない、と予想される。

+++++

もちろん、日銀が政策金利を引き上げれば、マーケット(外国為替市場)は、「ドル売り円買い」に反応する、と考えます。

しかしながら、上述の理由で、それは考え難いので、大方の事前予想が、現状維持となっているのだろう。

+++++

仮に、今週末の4月25日、26日に日銀金融政策決定会合で、現状維持が決定した場合、マーケット（外国為替市場）は、155円台（=155.00）のレジスタンス（上値抵抗）を試しに行く可能性は高い。

そして、155円台（=155.00）のレジスタンスを突破するようなケースでは、実弾での日銀・財務省の「ドル売り円買い介入」が実施される可能性も、高くなるのではないかと考えている。

+++++

現実問題として、今週末の4月25日、26日に日銀金融政策決定会合が終われば、ゴールデンウィークに突入するのだから、正直なところ、これまた困ったものだ、と危惧している。

+++++

さらに、ゴールデンウィーク真っ最中の4月30日、5月1日に、FOMCが控えている。

今年（2024年）のゴールデンウィークは、どのように対応するべきなのか、大いに悩ましい。

+++++
+++++

（2024年04月23日東京時間12：40記述）